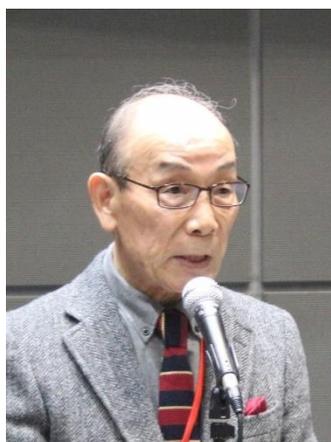


# 第13回日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会 仙台総会議事録

2019年11月23日(土) 13:30~14:20  
日立システムズホール仙台3F エッグホール

高橋：皆様、お時間になりましたので、ただ今から開催したいと思います。

本日はお寒いなか仙台までお越しいただきまして、大変ありがとうございます。ただ今より、第13回日本プロオーケストラファンクラブ協議会仙台総会を開催いたします。



司会・高橋 聖(SPC)

私は今日の司会を担当いたします、高橋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

最初に、私ども仙台フィルハーモニークラブの会長より、歓迎のご挨拶を申し上げます。

(拍手)

長島：どうも皆さんこんにちは。仙台フィルハーモニークラブ会長の長島と申します、と申しあげてももう、顔見知りの方ばかりでございますので、1年ぶりにお会いする方も多ございますが、大変元気そうな顔を見て、とても嬉しく思っています。

仙台は2日ほど前が初雪でございます、今紅葉の最終場面といったところでございます。ただ、今朝ほどは気温もあまり下がらなめで、まあ過ごしやすい方かなと思います。そういう日にですね、郡仙台市長様をお迎えして、日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会が開催できますことを、大変嬉しく思っております。本当に仙台によろこ。ありがとうございます。ただ、今回、総会の準備にあたりまして、各団体ですね、長の方といいますか、とりまとめの方が、ちょっと健康を害していらっしゃる方が複数というか多数おありまして、残念ながらこちらに来れなかったという方がいらっしゃいます。早期の健康の回復を願っているところであります。



長島 榮一(SPC会長)

先ほどまで幹事会をやっておりまして、本日の議題を審議しておったところなんですけども、議題が、ということも大切なんですけど、やはりコンサートホールで感動を共にした人間同士がですね、1年ぶり、あるいは2年ぶりにお会いしてもですね、即、音楽の友としてクリアに以前の感動を共有できる、人間関係が作れるものだなあということをつくづく感じております。本日の仙台フィルの演奏を聴きまして、また皆さんと、親交を深めてい行きたいと、というふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

す。

なお、本日の総会にあたりまして、本年3月に幹事会を東京で開催いたしまして、総会の在り方を、これまでと少々変更したいと。総会らしい総会と申しますか、議題に沿った形での審議をする総会ということで、本日は進行させていただきたいと思います。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

(拍手)

高橋：続きまして、当JOFC会長であります、上田文雄会長から、総会開催にあたってのごあいさつを頂きます。

(拍手)

上田：どうも皆さんこんにちは。ようこそ仙台にお集まりいただきましてありがとうございます。札幌の会長、そしてJOFCの会長をさせていただいております上田でございます。1年ぶりに皆様方にお目にかかれるということ大変嬉しく思います。また、今日は郡市長さんにもおいでいただいたということで、大変有難く思っております。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

私達のJOFCがどういったふうにあるのかということは何度も語るべきことだろう、また皆様とも日頃思っておられることというふうに思います。私達は基本的に音楽が好きだということと、そして地元オーケストラがある街に住んでいるという、そんな素晴らしいチャンスを受けているもの達だというふうに思います。日本1億2千万人の人口であります、その中で自分たちのオーケストラを持っているという人達は何人いるのでしょうか。というふうに考えるとそんなに多くはないかと思えます。そんな中で、オーケストラが素晴らしい演奏をしてくれることを、そのことをひたすら願いながら豊かな人生を送る。そんなことができるという幸せを、どう自分のものだけではなく多くの人に味わって欲しいかということをお願いながら、皆様方が地元で、地元の、オーケストラを大事にしよう、ファンを増やそう、とそんな思いで、活動されている、そんなふうに思います。そんな思いで活動をされている、そんなふうに思います。



上田文雄(JOFC会長・札幌  
くらぶ会長)

いい演奏を聴きたい、っていうふうに思う心は皆さん同じだと思います。いい演奏を聴くために、幾つかの要素があると思われま。私は勝手に思ってるんですが、オーケストラが上手くなるのは、それは良い指揮者が居ること、これが第一だと思います。よくいわれます、下手なオーケストラはいない。下手な指揮者が居るだけだ。といういい方をされるようであります。これは謙遜されていってるといふのかどうか判りませんが、そうかも知れません。みんな素晴らしい能力を持った音楽家たちがプロとして活動されております。そこにそんなに優劣があるはずがありません。良い指揮者が居れば間違いなく素晴らしい演奏ができる。私はそう思っております。

いい演奏を聴きたい、っていうふうに思う心は皆さん同じだと思います。いい演奏を聴くために、幾つかの要素があると思われま。私は勝手に思ってるんですが、オーケストラが上手くなるのは、それは良い指揮者が居ること、これが第一だと思います。よくいわれます、下手なオーケストラはいない。下手な指揮者が居るだけだ。といういい方をされるようであります。これは謙遜されていってるといふのかどうか判りませんが、そうかも知れません。みんな素晴らしい能力を持った音楽家たちがプロとして活動されております。そこにそんなに優劣があるはずがありません。良い指揮者が居れば間違いなく素晴らしい演奏ができる。私はそう思っております。

2つ目、良いホールがあること。ホールが素晴らしいと、実力通りの音が聞けます。そして、もっと素晴らしいことに、実力以上に聞こえるのです。実力以上に聞こえている、自分の実力以上の音が響いているということを感じることができる楽員の皆様方は実力以上の実力が付いてくるということです。上手くなるんです。ですから私達は、J O F Cとして毎年いろんな街に行き、そしてそこの行政の市長さん、あるいは知事さんにお目に掛かる機会を得て、是非良いホールを造って欲しい、ということをお願いして参りました。

この間、嬉しいことに高崎に行ってもう何年になりましたか。7、8年前でしょうか。知事さんにお目に掛かったりして、このホールは群響の皆様が気の毒だ。やってもやっても響かない。なんとかしなきゃいけないですね、ということを感じ、感想を率直に申し上げたことがございます。新しく芸術劇場ができたそうです。素晴らしいホールだそうです。それができたということを私達は本当にこの運動を、私達の運動があったからできたわけではないかも知れませんが、やはり声を掛けた、市民の声を届けるということは大事だな、そんな思いをしたところでございます。山形が、できます。素晴らしい芸術ホールです。ここでまた来年聴けるといいな、と思っております。残りはどこでしょう。(笑い声) 仙台です。僕がそこに入ってくる時に来年9月から再来年の10月まで全面休館にしますというふうに書かれてありました。全面、このホールを改修するということだそうです。「あ、ダメか。新しいホールを造るんじゃなくて、ここを改修するのか」とガッカリしたんですが、先ほどチラッとお聞きしておりましたら、これから決めると。「新しいホールどこにしようかって決めるそうだな」というようなことを郡市長さんから聞いてもらいました。必ず実現していただくと私は期待しております。J O F Cとしても声を大きくして仙台フィルハーモニーのために、仙台弥栄(いやさか)のために、本当多くの文化のために、是非とも素晴らしいホールを造っていただければと、そして郡さんの手によって頑張っていたきたい、そんな思いをこの場からお伝えしておきたいなとそんなふうに思っております。

オーケストラが上手くなる3つ目の要素。それは素晴らしいファンがいるということ。素晴らしい聞き手がいるということ。そのことだと私は思います。私達自身が音楽を学び、そして楽しむ。そしてそれを確かなものにするには、私達が勉強をしながら多くの仲間を募っていくということ。そして、オーケストラに「頑張ってください!」、良い演奏をした時には「うわあ、凄い!」。本当に感動を共有することができる。そしていまいちの時には「もっと頑張ってください!」とかいえる。そういうファンになりたいものだというふうに思います。経営の面からもそうです。多くのファンがいるということ、盤石な体勢があるということが、行政を励まし、そして我が子のオーケストラを励ましていくことに通じるというふうに思います。ここで私達は集い、お互いに情報交換をすることによって、他のファンクラブがどんなステキな励ましの、そして素晴らしい活動をしているかということを知り、そして様々な工夫、様々な知恵というものを互いに共有することによって私達が運動を、ファンクラブそして応援団としての活動がより素晴らしいものになっていくように、発展できるように、知恵をみんなと共有していく場になれば嬉しいと、こんなふうに思っているところでございます。今日の総会、そして総会に続く仙フィルの演奏会をみんなと聴き、そして懇親会であーだよな、こーだよな、というような色々な思いを語り合いながら、これからの一年また元気を持ち帰り、高齢社会でみんな

年取ったななんて寂しいことばかりいわないで、高齢社会だからこそ頑張るぞ、というふうな思いを共有しながら頑張っていこうじゃありませんか。

長くなりました。今日1日、本当に嬉しく思います。有り難うございました。

(拍手)

高橋：有り難うございました。続きまして、今日は大変お忙しい中、時間を取っていただきました、仙台市長郡和子様からご挨拶いただきます。

郡様：皆様こんにちは。有り難うございます。ご紹介いただきました、仙台フィルハーモニー管弦楽団の会長を仰せつかっております、仙台市長の郡和子でございます。日本プロオーケストラファンクラブ協議会の第13回の総会がこの



郡 和子(仙台市長)

ように盛大に開催されますことを、心からお喜びを申し上げます。今、上田会長さんから、札幌の前の市長さんで、hitaru (ヒタル) オペラ専業ホールの建設にご尽力いただいた上田会長さんから、ああいうふうで紹介されて、なるほどなあと。机の上には山形県総合文化芸術館2019年12月プレオープンというこれまで乗っておりましたものですから、(笑い声)ちょっと、あ少し肩身の狭い思いしながら、この席に立たせていただきました。

ようこそ皆様方、杜の都仙台にお越しいただきました。この仙台はまた楽都、音楽の都仙台といわれている所でございます。

ホールについては後ほど少しお話させていただこうと思っておりますけれども、仙フィルは大変頑張っております。後ほど演奏を鑑賞していただきますこと、大変嬉しく思いますところですが、仙フィルは皆さん、私が申しあげるまでもなくご存知のことと思っておりますけれども、1973年に宮城フィルハーモニー管弦楽団として、この地仙台に誕生いたしました。それからずっと、不断の研鑽を積んでですね、仙台の国際音楽コンクールは今や全世界で大変注目を集めているのですが、その演奏ですとか、秋にはですね、仙台にクラシックの音楽が溢れる数日間があるんです。子供たちや御高齢の皆さんたち、赤ちゃんも楽しめるような、そういう気軽な音楽のフェスティバル、仙台クラシックフェスティバルという大会があるのですが、その演奏ですとか、また、ジュニアオーケストラの指導などにも当たってもらっています。これだけ活躍できるようになっているのは、まさに、今回のこの総会の労をお取り下さった長島会長を含めて、仙フィルファンクラブの皆様方のご尽力があるからに他ならないという風に思っております。その仙フィルの活躍の場、今はこのホールが、主戦場といいましょうか、今、宮城県と仙台市と併せて、音楽ホールを何処にどういう風に造るかという議論が進んでおります。県の方では県民会館というポップスも含めて色々な多目的なホールがあるんですけども、その建て替えを進めるということが決定をし、場所は仙台駅の東口の方に建設をする予定になっております。仙台市もですね、クラシックの専用、生の音源を活かしたホールということで、仙フィルは実に、上田会長の言葉を借りればですね、実力以上の力を発揮できて、そしてそれが更なる実力に繋がるようなホールを目指してですね、新たな整備をし

たいということで議論が進んでいるところです。今年、今年度中ぐらいには、どこに建設しようかという決断が迫られているところでございます。多くの市民の方々も深い関心を持っておられます。このこと自体も大変嬉しいことだと思っております。「楽都仙台」の名に恥じないように勤めていかなければならないなあという風に思っているところでございます。また、先ほど上田会長からもお話がありましたけれども、ファンクラブの皆様方がどれだけ地元のオーケストラと市民を繋いで文化芸術の振興に当たっていただくの。これが大きな力になっているという風に思っております。今日こうして全国の、オーケストラをお持ちの都市から、ファンクラブ皆様方がおいでくださっています。様々な親睦を深めるのみならず、色々なご意見をお聞かせいただいで、この仙台にもですね、また新たな力を吹き込んでいただければ大変嬉しく思うところでございます。そして是非、仙台にお越しくございましたので、仙台の海の幸、山の幸、美味しい物たくさんございます。是非、お召し上がりをいただきまして、思い出としてお持ち帰りいただければ嬉しく思うところでございます。

結びになりますけれども、日本プロオーケストラファンクラブ協議会の皆様の益々のご発展、そして今日ご参集の皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、歓迎のご挨拶に代えさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願い申し上げます。有り難うございます。

(拍手)

高橋：それではこれより議事に入りますが、その前に、郡市長が公務との兼ね合いからご退席なさいます。拍手でどうぞお送りください。

(拍手)

今日の総会は、今の上田会長のご挨拶と郡市長のご挨拶で、8割方終わってしまったような感じがしますけども(笑い声)、私ども仙台フィルファンクラブとしては非常に嬉しい会になりました。

それでは早速議事に入って参ります。今日はですね、J O F Cの幹事長の西川様と、それから事務局長の武藤さんが健康上の理由で欠席なさいましたので、J O F Cの副会長をやってもおりますS P Cの長島が、今日の議題進行を担当させていただきます。

お配りしました議案書の4ページに、今日の議事の内容が書いてありますので、そこに沿って進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

長島：では私の方から議案について提案をいたします。まず「議案第1. J O F C役員体制の刷新について」ということになります。これは、この提案の前提となります、会長も含めて幹事長、事務局長と、創立以来13年、かなり一所懸命やっていただいたところでございます。それについて刷新についてということは、札幌くらぶの方からありましたので、本年3月、東京で幹事会等を開いて検討した部分、あるいは未了だった部分を含めての提案でございます。直前の幹事会でも若干の修正が入りましたので、基本的に私の方から口頭での提案にさせていただきます。

まず「議案第1のⅠ 会長職の取り扱いについて」、こちらの2行、原文にありますように、上田会長に終身会長としてというふうな希望をしたところでございますが、これはご自身から、終身というのは組織としていかなるものかという発言がございまして、以下のように変更させていただきたいと思っております。当分の間、任期まで、任期は令和3年2021年（※訂正令和4年2022年）でございます。任期まで会長を継続する。という形の提案にさせていただきたいと思っております。

それから議案1のⅡでございますが、「幹事長・事務局長の交代の検討」であります。「幹事長の交代」については、ここは口頭で申し上げます。「山響ファンクラブ加藤顧問と現西川幹事長との間で、今後の方向性を協議する」ということで提案させていただきます。

それからⅡの2、「事務局長の交代」について。これにつきましては、継続して協議するというので、提案をさせていただきたいと思っております。まず議案第1については以上でございます。

高橋：それでは、議案第2につきましては、先ほどの幹事会での決定を受けまして、札幌の村岡様よりご説明いただきます。

村岡：それでは、今日西川さん、武藤さんが欠席ということで、私が替わってご説明いたします。

議案2につきまして。昨年のJOF C札幌総会にてですね、群響のファンクラブから提起されました、北海道胆振東部地震、震災支援を頂きました。皆さんから手厚いご支援金を頂きましたけれども、その用途についてですね、色々検討した結果ですね、札幌交響楽団から音楽による心の復興コンサートというものをですね、現地で、被災地でですね、開催いたしまして、そして更に、つい先日ですけれども、9月15日に厚真町のスポーツセンターにて、ここにプログラムが残っておりますけれども、札幌が松本宗利音（しゅーりひと）さんの指揮のもとにですね、ベートーベンのシンフォニー他を演奏いたしましてですね、演奏いたしました。大勢の方が集まりましたけれども、皆様にご支援頂いたことをですね、心より感謝申し上げますとともに、ここにご報告させていただきたいと思っております。以上です。

高橋：有り難うございます。

議案の1につきまして、一度戻りますけれども、議案の1につきまして先ほど、長島副会長の方から話があった件なんですけれども、皆様の方で、ご意見を頂戴したいと思います。この件に関しまして、何かご意見のある方いらっしゃいましたら、お伺いいたします。

いらっしゃらないでしょうか。無ければ、皆様の方でこの件に関しましてご承認いただければ、拍手でご承認いただきたいと思います。

（拍手）

有り難うございます。

それでは次に移らせていただきます。次年度の開催地についてということで、こちら  
も先ほどの幹事会で決定を受けましたので、副会長の長島よりご説明申しあげます。

長島：すいません。ここです、議案の追加をさせていただきたいんです。議案3として  
「次年度の開催地について」となっておりますけども、これを議案4とさせていただ  
いて、議案3としてですね、別にまた提案をさせていただきます。

「議案3. 総会については実行委員会形式とし、開催地のファンクラブが主導する」  
こととする。もう1回申しあげます。「議案3. 総会については実行委員会形式とし、開  
催地のファンクラブが主導する」という内容でございます。これ、若干補足させていた  
だきますが、これまでですね、このJOF Cの総会は持ち回りでやっております、そ  
の持ち回り先のオーケストラのファンクラブが総会を準備しておりました。それは札幌  
に置いております事務局とも相談のうえやってきた、という経過がございます。しかし  
ながら諸般の事情、例えば、そのファンクラブ自体がやはり高齢化してですね、準備が  
単独で難しい場合とか、あるいは本部っていいですか札幌にございますので、そこの  
間の十分な意思疎通を持った準備とかいうことが、なかなか難しい時もありますので、  
総会については、開催地が実行委員会を立ち上げて、そこで主体的にやっていくとい  
う主旨でございます。となりますと具体的には、例えば近傍のファンクラブと一緒に手伝  
うとかですね、そういうような形で、実行委員会形式をもって行くと。ただ、これにつ  
いてはそれを選択するも、いやいや単独でやれるというのは、その開催地の方にお任せ  
したいと思います。そのような提案が議案3とさせていただきます。よろしくお願  
いします。

高橋：以上で主な議案がご説明できたんですけども、ここまでのところで、もう一度皆様  
の方で何かご質問なりご意見がありましたらお伺いいたしますけれども、いかがでしょ  
うか。

それではですね、お手が挙がらないようですので・・・

上田：ちょっとよろしいでしょうか。

高橋：はい

上田：長島会長の方から事務局長、幹事長の仕事をどうするかということのご提案でござ  
いました。このままだったらこのままでやればいいのかという話かとお思いかも  
わかりませんが、今回お2人、私ども札幌くらぶの西川と武藤さんと、いずれも健康上  
の理由が原因でございまして、お休みさせていただいているところでございます。皆様  
方の活動報告読ませていただいても、どのクラブもやはり高齢社会を反映いたしまして  
なかなか会員が、活動がこれから、いらしてくるにもなかなか大変だというようなです  
ね、お話が子細にございます。それはもう日本全体が高齢社会ということでもありますの  
で当然のことだというふうに思いますけれども、活動に様々な支障が生じているとい  
うことも、よく意識を共有できるところであります。

この度西川さんも武藤さんもなかなか活動の、十分これまでどおりの事がずっと続け

られるという状況ではだんだんなくなりつつあるので、将来のことをしっかり考えて欲しいと。こういうご要望がございまして、3月に東京で幹事会を行った際にも、どうしようかねえというようなお話をさせていただいた結果ですね、今日の議論も踏まえまして、とりあえず私どもの、私は会長という立場でございまして、皆さんのご信任の中で活動させていただきましても、西川さんは次の世代の活動を担っていただけることを期待を込めてですね、山響のファンクラブの加藤顧問に、是非、次これからのことを展望しながら協議をしながらですね、西川さんと一緒にやっていただきたいということのご提案でございます。そして武藤さんは、武藤さんの仕事を担っていただける方を探しながらですね、各クラブの皆様方に是非、武藤さんと一緒に仕事をですね、みんなでやって、私がやっていこうというふうな気持ちを持っていただけるような状況をこれからも作っていこうというふうな呼びかけの提案ということで、今日の先ほどのご提案ということになったということでございます。

是非その上でJ O F Cとしての仕事の大変さというのはこの総会の持ち方についての能力がかなり負担になるというような認識がございまして、これを実行委員会という形で、開催地の実行委員会のご判断によってですね、しっかり実現していくというようなことをですね、実行委員会形式でやっていこうと、こういうふうな内容でご提案をさせていただいたところでございます。もちろん札幌の札幌くらぶ、これまでの知識だとか経験だとかっていうものを実行委員会の皆様方にご協力していくということは当然でございますけれども、是非それぞれの主催する主導するファンクラブの皆様方にこれからもご協力をいただきたい、こんな思いでございまして、そういう提案だということでですね、補足的にご説明させていただきました。有り難うございました。

高橋：ありがとうございます。

それではもう1つ、先ほど長島の方から説明がありました議案4について、もう一度長島の方からご説明いただきます。

長島：議案3の承認を受けておりますので、議案4につきまして説明いたします。次年度の総会開催地について。2020年度（令和2年度）は山響ファンクラブ。それから予定ではございますが、翌年度は郡響ファンズになっております。なお来年度の、2020年度の総会は、実行委員会形式で開催したいという希望が山響ファンクラブの方から寄せられておりますので、併せてご報告いたします。

高橋：それではですね、今の議案4について、議案3と4もう一度ご承認いただければと思います。拍手でお願いいたします。

（拍手）

それでは各地のですね、ファンクラブの活動報告を頂戴しておりましたので、今まではテーブル方式で色んな議題をみんなで討論する機会を設けたんですけど、今回はその時間が取れないものですから、活動報告を出していただきまして、その総括という形でですね、幹事長の西川様の方から簡単な総括を頂いておりますので、それを含めて長

島の方からご紹介していただきたいと思います。

長島：総会次第の方には載っておらないのですが、別冊で袋の方に入れさせていただきました各団体からの報告というのがございます。それらをですね、西川幹事長が通読いたしまして、自分なりに、ああこういうことかと、こういうこと大切だなというようなところをまとめという形で頂きました。一番後ろに綴じてあるものかなというふうに思います。それをちょっと見させていただいて、ああなるほど、こういうこともあるんだなあというふうなちょっとキーポイントといいますか、ポイントになるところを私の方から報告をさせていただきます。

まず、会員数と動向について。これタイトルの脇に書いてあるの、そのとおりでありまして、特に下の、挙げた中で、どうも高齢化に対応できていないと、いうふうな部分が共通の部分であるようであります。ただその中で、やはり各団体の個性というのが随分違うんだなということを感じました、ということです。真ん中にですね、特に群馬について楽団本体との合同開催が活発に見える、ということだそうです。私もこれ聞いているところですけども、郡響ファンズの方には、ファンクラブの会員に楽員の方がなっているというふうな形になっているのだそうです。それから最後のところですね、「超高齢化社会こそ音楽芸術の持つ各特性を重視することが重要で、社会参加を促す役割もある」。私ども仙台フィルハーモニークラブも、お若い方とか、それからこれまでオーケストラを聴いてらっしゃらない方とか、そういう方々にチケットをプレゼントするような形で聴衆を増やす活動をしてきたところでもあります。

2番目。交流実施事業について。会員組織にとってこれが重要と西川さんがおっしゃっているんですが、各団体とのパーティとかセミナーとか、様々なことをやっておりますけども、これが我々の楽しみというところもあるんですが、これはもちろん、下から2つ目ですが、「楽員にとっては演奏会や活動の方が求めている傾向にある」ですので、そういうものとリンクする、あるいはそういうものの場をあるいは提供する、あるいはともに作る。そういう形で交流実施ということを、聴衆だけでなくて楽員の皆さんともやるということが大切なんではないかな、というふうに考えている次第でございます。

次にですね、助成等の事業。これは各団体の社会参加に繋がるというふうに、西川さんの方が指摘しております。特に西川さんが「会員外への助成事業が仙台、札幌、群馬で行われている」というふうな評価をしております。これは新規会員獲得の効果があるということだそうです。

また、最後から2つ目、「助成事業によって団体が持つ信用度が向上する」です。これはちょっと手前味噌なのかも知れませんが、やはり様々な社会参加型へのですね、アピールという意味では、ファンクラブは様々な助成事業に多くする、あるいは受けるという立場もありますが、そういうことで社会的に認知されていくことに役立っているものと思います。

次に会報発行事業。本来はもっと資料を集めての議論があるといい、これは私ども反省しなきゃいけないんですが、各団体がですね、会報を発行しているところが多ございます。ただこの会報は内容も、あるいは体裁も作り方もバラバラであります。ただ唯一、ファンクラブとして情報を発信する確固たる手段であることは間違いありませんので、今後その発行部数、配布先、それから私から申しあげますと作り方ですね。スポンサー

を入れる入れないを含めての検討は重ねてしなければいけないのではないかなと思います。それから、これは西川さんがご覧になっての、お気づきだと思うんですが、各団体共に会への参加、掲載が少ないと感じているかと。やはりいつも投稿される方とか、そういう方が固定化している、そういう面もあるのかなと思います。

次に最後、SNSの活用。「遅れている、もっと活用が期待されている」ということだと思います。これはちょっと私の一番苦手な分野なので何ともいえないんですけども、真ん中にあります、若者対策というのでしょうか、ファンクラブの構成が高齢化していくなかで、情報発信ならびに、そこに乗ってきてもらうというのでしょうか、そういうことに対してのSNSの活用というのは、確かに今後もっともっと、各団体検討しなくてはいけないかなというふうに思っているところでございます。

西川さんが作りましたまとめについて要所のところをご報告させていただきました。以上でございます。

高橋：ありがとうございます。それでは、主な議事の討論は終わったんですけども、最後にあたってですね、今日はこの後、皆様鑑賞していただきます仙台フィルの第332回定期演奏会について、今日は仙台フィルハーモニー管弦楽団の事業部長であります磯貝部長がいらっしゃっておりますので、磯貝様の方からご案内を申し上げます。

磯貝事業部長：ようこそ仙台にいらっしゃいました。有り難うございます。仙台フィルの事業部長をしております磯貝と申します、よろしくお願ひいたします。まず簡単に最近の仙台フィルの活動についてご紹介をさせていただければと思います。仙台フィルは2017年まで、フランス人のパルカル・ヴェロが常任指揮者を務めておりました、11年間、勤めておりました。18年から飯守泰次郎が常任指揮者、それから今日指揮をします高関健がレジデント・コンダクター、それからもう1人が指揮者として角田鋼亮、この3人体制で新たに18年からの体勢をスタートしております。



磯貝純一  
(仙台フィル演奏事業部長)

この18年からですね、ちょうど来年皆さんよくご存知だと思いますけれども、ベートーベンが丁度生誕250年を話題に迎えるんですけども、これを実は見据えまして、18年からベートーベンのチクルスを始めております。ベートーベンのチクルスといいますと、ベートーベンのシンフォニーが主になってくると思うんですけども、シンフォニーはもちろんそうですが、それ以外にもシューマン、シューベルト、メンデルスゾーン、そういったところを全部複合的にしましてチクルスをして、それがやっとな来年の20年、お手元にパンフレットがございませうけれども、こちらの定期演奏会他のところでも網羅しつつ、ベートーベンを完結していく。それからその周辺を取り巻いていくメンデルスゾーンとか、そういった多角的なところのプログラムを加えていくというような感じで進めております。

それから、お手元にこちらのパンフレット、来年のパンフレットをお持ちだと思うんですけども、最近の近況のことをご説明させていただきますと、この年間パンフレットという物がございまして、こちらの表紙をご覧いただくとわかるんですけども、例

例えばチラシですとかポスター、こういった印刷物の時の写真をですね、カーテンコールのお客様と向き合う、皆さんと、見ている方と向き合うというのを、写真を意識的に使っていきます。これをもちまして、なんとか皆さんと繋がろうという意識の現れというふうに思っただけであればありがたいなと思っています。

それから先ほどちょっと高齢化という話がありました。仙台は百万人都市でございまして、いわゆる高齢者という方々が実は25%いらっしゃるんですね。百万人都市の25%ですと25万人いらっしゃるわけなんです。まだまだそういう意味ではいらしてない方がまだまだ一杯いらっしゃいますので、よく高齢化して心配だという声があるんですけども、私達は全然心配していません。まだまだ、色んな歌舞伎ですとかお芝居とか、楽しんでいる方皆さんいらっしゃいます。まだまだ、なかなかクラシックに足を運んでらっしゃらない方がまだまだいらっしゃってます。ですので是非皆様も、隣の方ですとか、ご友人の方、そういった方を含めてお誘い願いたいと思います。

一方で若い方々なかなかクラシックの方が足を運ぶ、少ないと思います。今日はコンサートいらっしゃる方多分プログラムご覧になっているからわかると思うんですけど1ページ目のところに「U18」という制度私ども始めております。こちら企業の方からの協賛を頂きまして、子供さん向け、U18ですからアンダー18ですね、小学生や高校生まで。この方々のチケットを購入していただいて、それを活用していただいて、子供さんたちに来ていただくというような形のプログラムになっています。今日たまたまトロンボーンコンチェルトということで私どもの首席トロンボーンがソロを務めるものですから、吹奏楽の方が多くて、多分今日いらっしゃる方々、100人ぐらい子供さん達がいらっしゃるんですけども、ほとんどの方はそれを利用していただいています。そういう方々も、実は子供さん方がチケットを買ってくるというのが難しいハードルなものですから、企業のご協賛を得て、そういう方々や若い方に来ていただくと思っています。

それから先ほど、SNSという話がありました。実は仙台フィルはオーケストラ連盟の中ではですねSNSが非常に発達して、超有名な所なんです。多分twitterをやっている方は多分ご存知だと思うんですけど、ハッシュタグで“仙台フィル”というのを検索してやると、膨大な数が出てきます。実はこれ私どものSNSの使い方というのは、1つはですね、1つのコミュニティを作ろうとしているんですね。ですから例えば今日コンサートがありますと、数時間後に担当者がその色んな情報を上げます。それに色んな方がツイートをして、感想とか色んなことを述べられていきます。そこで実は色んなディスカッション、ディスカッションじゃないんですけども、色んな意見が挙がってきます。それを色んな方が見ていらっしゃると。実は私どものメインの公式ツイッター、フォロワーが1万5千人いらっしゃいます。その方々がそれをまた見ていただくと、いうところでまた興味を膨らませていただくと、というような活用の仕方をさせていただいております。なかなか公式ツイッターといいますと、オフィシャルなアナウンスメントとかしかならないという所が多いんですけど、私どもは非常に自由にやっています。例えばオリンピックの時にはオリンピックの話をして、こないだラグビーの時は、ラグビーの話をして、で、色んな方が客員に来られた、方々の色んなトピックスとかの話をしてしたりします。そういうことで、実はなかなかクラシックというのは非常に画一的なプロモーションが多い中でですね、多角的なものになるべく皆さんにご提供しような

というふうに思っております。

それからもう1つ、先ほど郡市長の方からホールの話がちょっと出ました。お手元に山形の新しいホールの資料お有りになるとは思いますけども、山形交響楽団は実は、ここ仙台から山形って1時間の距離なんですね。ほとんど隣同士に近いです。ですので、私どもここ数年は山響さんと非常に良い関係で色々な協力体制になっておりまして、この新しいホールが出来るとも来年実は合同演奏会を久しぶりに開催いたします。これはまさにこのホールが2千人のホールなものですから、まあ、箱が大きいんですね。山響さんとプラスアルファで我々も加わらせていただきまして、合同演奏会というのをこれから定期的に今、開催しようという風な形で話が進んでおります。その1つの現れとして、この3月に、仙台フィルの定期演奏会で初めて、山形交響楽団の芸術監督の飯森範親さんが初登場いたします。実はこれ初めてなんですね。主催公演でなかなか隣の楽団の一番音楽のトップの方が来られることってなかなか無いんですけども、これ初めてやりました。これ実をいいますと、山響さんと一緒にする、1つの、一步の現れだと思っていただければ凄くありがたいなと思います。山響さんと、楽団員の例えばエキストラの融通の仕方とかですね、それから事務局も、まあ近いものですから、よく訪ねて行って財政上の事の悩み相談とかですね、それから色々な事の、色々な組合とか色々話とかですね、そういうところをシェアしながら、隣同士で一緒にやっております。来年一緒にするのも実は東北ユナイテッドという名前のタイトルを作ります。東北、実をいいますと私どもと山響さんと2つしか無いんです。東北、6県あります。この6県の中、山形交響楽団が山形を全部やる、仙台フィルが宮城県を全部やるということではなくて、東北全部がお互いに2つのオーケストラが協力し合いながら、是非、音楽活動を皆さんに普及させていければなというふうに思っています。



第13回日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC)総会仙台総会

今日の曲目についてはですね、この後、高関さんがですね、詳しくお話をされますので、その辺は割愛させていただきますけども、もう1つ加えさせていただきますと、私ども、先ほど郡市長の話にもありましたけども、仙台市からのご支援を頂いております、仙台クラシックフェスティバル、それからコンクールのホストオーケストラとして活動させていただいております。やはり、地元 roots という活動は非常に重要視されております。

今日、会場入っていただきますと左側にお花が、オブジェが飾ってあります。実はこれ、仙台市の花卉（かき）市場という、あの、各大都市には中央卸売市場というのがあるんです必ず。魚と野菜とお肉と、花があるんですね。そのお花の組合と実は連携をしております、もう3年、今年で4年目になります。毎回定期演奏会の時にオブジェを飾っております。あれ実はコンペティションになっています。お花の組合はですね、実をいいますと若い世代の方がだんだん育ってきている



石巻の花屋さんのオブジェ

るんですね。で、発表の場がなかなか無いんですよ。お花の組合、膨大な数でいらっしやいます。今日のは石巻のお花屋さんなんです、飾っているのは。その方が独創的に考えて飾っていただきます。それを毎月やらせていただいています。で、お花の組合が、是非こういう機会に「花」というものをもう1回見直していただきたいと。で実はもう1つ、この話 tips なんですけども、お化粧室入っていただきますと一輪挿しが飾ってあります。一輪挿しのちっちゃな花瓶の中に、一輪だけ飾ってあります。それだったら、1輪だったら簡単に買って帰れるんですね。お花屋さんが実は望んでらっしゃるのはそういうところなんです。お花1個飾るだけでこんなに変わるんだと。実はそれは音楽会も全く一緒に、1回聴いていただくと、是非また聴きたいなと思っていただければ有難いと思います、はい。是非仙台フィルの演奏会、楽しんでいただければと思います。よろしく願いいたします。

(拍手)

高橋：ありがとうございました。

今、磯貝さんから仰った、高関さんがこの後説明すると言いましたのは、毎回定期演奏会の頭に指揮者が今日の演目について語る時間がありますので、ちょっと早めに入っていただきますと、そのスピーチを聞くことができますと思います。

総会の方ですね、時間が迫ってきましたので、ほぼこれで今日の総会の方は終わりたいと思いますけれども、皆さんのところで今までのところで何かご質問なりご意見とかありましたら、このところでちょっとお受けいたしますけれども。

はい。

石森：群響ファンの事務局長やっております石森と申します。活動報告のところで、しくじりまして、一点だけ抜いてしまった事がありましたので、ご報告申し上げます。楽団の支援事業として寄贈というところになると思うんですけども、群響の創立70周年のときに、ちょっと今金額は失念しておりますが、寄付をいたしました。で、今80周年に向けて寄付を募っているところでございます。以上です。



石守 晃  
(群響ファンズ事務局長)

高橋：他にございませんか。はい、どうぞ。

栄浪：SPCの栄浪です。先ほど毎年の総会を実行委員会方式で開催するというお話でしたけど



栄波章文(SPC)

も、これを前向きに捉えさせていただくとですね、今度、念願の広島でもできるのかなという気がいたします。是非、2年後くらいまでは予定が立っているかと思っておりますけども、是非、広島でも開催できるような形で、ちょっと検討いただければなと思うんですけども、皆さんどうでしょうか。

(拍手)

高橋：あの、佐藤さんの。

佐藤：広島の佐藤と申します。実はあの、広島のファンクラブでは2011年、ちょっと都合で解散しまして、今再建目指してたんですが、先ほどいいましたように高齢化とか何かで無理になりましたので、今、実はその解散の報告をしようかと思ひまして。

(笑い声)



佐藤幸一(広響フレンズ)

結構、今回については次世代のファンの獲得ということも考えて、一応事務局の方に詰めておきたいと思ひますから、2年後にできるか、3年後にできるか、不可能かはわかりませんが、一応連絡は強く伝えておきますので、その点はお約束できると思ひます。以上です。

高橋：ありがとうございます。以上で今日の総会を終了したいと思ひますけれども、若干連絡でございます。この後、3時から1階のコンサートホールで仙台フィルハーモニーの第332回の定期演奏会をご鑑賞いただきまして、その際ですね、皆様方お持ちの手荷物ですね、コンサートホールの奥にクロークがございますので、そちらにお預けください。コンサート終わりましたら、その後ですね、5時半より、そのコンサートホールと同じフロアの入りの1番、入り口の方に、「けやきの杜」というレストランがございます。そこで今日、

懇親会を予定しておりますので、コンサート終わりましたら、そちらの方にご集合お願いいたします。

それから、懇親会終わりましたら8時から、このホールから歩いて5分くらいの所にあります、ティーズっていうイタリアンレストランで、二次会を予定しておりますので、そちらにはSPCのスタッフが皆様をご案内いたしますので、一緒に行ければと思います。

それではですね、この後、皆様で記念写真を撮りたいと思いますので、大変失礼いたしました、閉会の挨拶は仙台フィルハーモニークラブの副会長の阿部からご挨拶申し上げます。

阿部：本日は総会にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。郡市長始め仙台フィル機員演奏事業部長にご臨席いただきまして、改めて感謝申し上げます。

お陰様をもちまして、予定の議事、全て滞りなく行われましたことを感謝申し上げます。有意義な意見交換ができましたこと大変嬉しく存じます。日本のプロオーケストラの更なる発展と、オーケストラを応援する私たちファンの拡大を祈念いたしまして、閉会のごあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。



阿部 玲子(SPC)

(拍手)

高橋：阿部さんどうも大変失礼しました。

(笑い声)

以上で全て今日の総会の議題、終了いたしましたので、この後すぐ此処で写真の撮影を行いたいと思います。一旦皆さん立っていただいて、写真撮影のセッティングをしたいと思います。

よろしく願いいたします。



第13回JOFC総会仙台総会出席者による記念写真(日立システムズホール仙台3F エッグホール)